

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1291200598		
法人名	医療法人社団 洗心		
事業所名	和名ヶ谷ほたるの里		
所在地	千葉県松戸市和名ヶ谷664-1		
自己評価作成日	令和元年7月4日	評価結果市町村受理日	令和元年10月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	令和元年8月26日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人が運営するグループホームで、手厚い人員配置と最新の設備(ICT・リフト浴など)により、中～重度の方も受け入れが可能。医療法人ならではの連携がご入居者様の安心を支えます。「できない」ことを探して支援するのではなく、「できること」を探しつづけていける様に努めています。外出の機会を集団・個別にてできるだけ多く実施している。地域との関係性を維持できるように配慮して実行している。  
認知症教育に力を入れており、千葉県実施の認知症研修に多くの職員を受講させている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して1年足らずであるが、ホームの運営体制を作り上げ、利用者本位の支援に取り組んでいる。各種の委員会を設置して職員が主体的に活動できるようにしたり、居室担当職員を配置し毎月のモニタリングや家族に手紙を届けることなどを実施している。ユニットごとにリフト浴を備え、重度の利用者も入浴が可能となっている。母体の医療法人とは連携が密に取れており、月2回の医師の診察や週1回の看護師の訪問で、利用者の日々の健康管理に取り組むほか、看取りも実施している。災害対策にも力を入れており、夜間想定は文字通り夜間に行うなど、実践的な避難・消火・通報等の訓練を実施している。ホームの目指していることは安全・安心に暮らしてもらうことであり、その実現に向けてホーム一丸となって、取り組んでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	医療法人としての理念・理念の実践方法を朝礼時に唱和している。 理念を事業所内各ユニットに掲示している。 ユニット会議等の開催時などにも職員が記憶・実践できているか確認している。	法人の理念は明文化し、各ユニットや事務室に掲示している。朝礼やユニット会議では理念及び理念の実践5項目を唱和し、意識付けを図っている。職員は、実践で迷った時などは理念に立ち返るようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアさんの受け入れや高齢者支援連絡会などへの参加をしている。 施設のイベントの際は近隣住民や市内の福祉作業所などにも声かけしている。 同業他社運営推進会議に参加している。	ホームの「ほたる祭り」は地域にも案内しており、近隣住民も参加している。ホーム近くで開催される「桜まつり」には、模擬店を出して五平餅を販売したり、地域の盆踊りに利用者も参加するなど、地域との交流を大切にしている。また、フラダンスやアロマなどのボランティアを受け入れ、利用者を楽しんでもらっている。	町会に加入するなど地域との関係づくりをさらに進め、運営推進会議に町会役員等に参加してもらったり、災害時の協力体制などの構築を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月開催される同法人クリニックでの講演会で講演したり、2か月に一度行われる市民劇場での講演会にて啓蒙活動を行っている。 町内会などの招きに応じて説明会を行っている他、個別相談にも対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では必ず質疑応答の場を設けて様々な意見を頂戴し、運営に役立てている。運営推進会議では自施設の話だけではなく、地域の抱える課題なども話し合い、解決に向けた取り組みも行っている。	運営推進会議は利用者家族、地域包括支援センター職員、他事業所の施設長や管理者等の参加で2か月に1回開催している。運営報告、苦情報告、地域事例検討などを話し合っており、家族の意見から施設サービスの改善につなげた事例もある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	書類提出時などに意見の交換を行っている。運営推進会議などで近況を伝えている。判断に迷うときは些細なことでも相談するように努めている。 法人主催勉強会に講師として来ていただいている。	市の高齢者支援連絡会やグループホーム連絡会など行政が出席する各種の会議に参加し、情報収集や情報交換を行っている。また、法人の勉強会に講師としてきてもらったり、介護相談員を受け入れるなど、連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月身体拘束防止委員会を開催し、その内容をユニット会議などで徹底している。 入り口玄関に関してはセキュリティ上、施錠しているが、希望する入居者に対しては即座に外出対応をしている。	身体拘束をしないケアに取り組んでおり、ホームの身体拘束防止委員会が中心となり活動している。最近では身体拘束の要件や行動を制限する声掛けなどについて話し合い、ユニット会議で全職員に周知を図るようにしている。	

## 【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月虐待防止委員会を開催し、その内容をユニット会議などで周知している。 法令の周知だけでなく、職員のストレスケアの一助として休暇を多く取得できるように職員配置するなどしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	千葉認知症研究会に加入し、シンポジウム開催の際は参加している。 各種委員会などで説明をしたり意見交換をしている。 外部講習会に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族にもわかりやすい説明を心がけ、専門用語を使わない様に心がけている。説明時にわからないことがあれば都度お答えするようにしている。また、その内容をただちに反映するように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の際に、堅苦しくならないように配慮し、お話してもらいやすい環境作りに努めており、実際にささいな内容のことでご意見を頂戴できている。地域事例の検討などでも様々な意見を頂いている。	家族の面会も多く、要望等はその時に聞くように心がけている。介護相談員も受け入れており、利用者の意向の把握に取り組んでいる。運営推進会議では必ず家族にも発言してもらおう機会を設け、意見等はホームの運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個々の面談の他、ユニット会議やリーダー会議を通じ意見を聞いている。ただちに反映できない場合もあるが、職員の意見を聞き、働きやすい職場作りに努めている。	ユニット会議やリーダー会議などで、ホームの方針や職員からの提案を話し合う場がある。リーダー職員は職員とのコミュニケーションを取るようしており、意向の把握に努めている。カンファレンスも活発な意見交換がされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の職員評価にて賞与に反映する他、昇給や資格取得時の表彰などを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内部の研修の他、認知症実践研修や管理者研修などで受講の機会を多く提供し、知識や技術の習得の機会を増やしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業他社の運営推進会議に職員を参加させてもらっている。 GH連絡協議会の勉強会などにも参加している。		

## 【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員が本人やご家族からの傾聴を行い、信頼関係を築けるように努力している。面会に来所した際などにも意見を聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学时、契約時、入居の際などに必ず不安なことなどや要望などを聴取するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の時よりご本人にとって最適なサービスを法人内の他事業所も含め提案している。既に老健でのリハビリを目的とした入所や、末期がんなどでの対応のためレジデンスへ入居したりなどの実績がある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立した生活を、いつまでも長く続けていける様に、ご入居者様同士で協力して生活できるような支援・環境作りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病状悪化時などご家族に協力を求め、食事介助などをお願いしている方もいる。面会でいらした場面などに「散歩」をお願いしたりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かつて生活していた場所の「ご近所さん」や古くからの友人など面会に来たりしている。また、馴染み・希望の場所に個別で出かけたりのりしている。	入居前に住んでいた家の近所の人、お花の先生をしていた時の生徒、老人会の仲間など、さまざまな知人がホームに利用者を訪ねてくる。家族と一緒に行くお墓参りや電話の取次ぎなど、これまでの関係性が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブルに発展してしまうこともあるが、職員が介入を上手に行うことでご入居者同士の交流が損なわれないように支援している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご逝去による利用中止、他のサービスへ移行された方などにフォローを行ったり、ご家族自ら事業所に連絡をしてくださったりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉にできず意思表示が難しい場合においても、表情や仕草などから把握できるように努めている。また、その際の様子を家族に伝えて、ご意見をいただいたりしている。介護相談員を依頼している。	日常の会話から、思いや意向を聞き取るようにしており、家族からも来訪時や電話などで情報を得るようにしている。また、コミュニケーションが難しい場合は、利用者の表情や様子などから読み取るようにしている。得た情報は口頭や連絡ノートに記載して職員間で共有し、支援にあたっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時の記録の他、本人・ご家族等から頂いた情報をユニット内・計画作成担当者で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々変わる入居者の心身状況を把握するため、出勤時は口頭での申し送りの他、連絡ノート等を活用し確認するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議やケアカンファレンス時に意見やアイデアを募り、介護計画に反映している。モニタリング能力を向上するために各職員に居室担当をさせている。	入居前のアセスメント、本人、家族の意向などを踏まえ介護計画を策定している。入居後は居室担当職員が毎月モニタリングを実施し、利用者の状態の変化を把握するようにしている。ユニット会議や随時開催するケアカンファレンスで、新たな課題や支援内容について話し合い介護計画に反映させている。	毎月利用者の身体状況のモニタリングを行っているが、介護計画に沿った支援の実践状況や、支援経過についてのモニタリングが十分とは言えない。実践している支援の根拠と利用者の状態の変化が把握できるような介護計画の工夫が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ICT端末での記録の他、個別カンファレンス記録などで把握できるようにしている。また、その結果を申し送りやICT端末などでも共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて個別対応で外出や外食を実施するなど、個々のニーズに合わせたサービスを提供できるように心がけている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を最大限活用できるように、地域の求めに応じて説明会や講演会などに参加している。外食などでは地域のお店や、かつて入居者がいた地域のお店を選定している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関で対応できない受診や検査が必要となった場合など施設で支援している。希望や状況に応じて訪問看護の手配を行っている。	利用者は月2回訪問診療を受けており、専門医の受診や検査が必要な場合は職員が対応している。また週1回看護師が訪問し利用者の健康チェックを行っている。医療法人の強みを活かし連携しながら、利用者の健康管理に努めている。以前からのかかりつけ医を受診する場合は、家族とも協力して支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師だけでなく、往診時以外の来訪も多いので医師とも直接話せる機会が多くあり、情報の共有や相談が日常的に行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人内外問わず、入居者の心身状況を鑑みて早期の対応を行えるよう関係づくりをしている。地域の医療介護関係者の勉強会などには極力参加するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時・心身状況に変化があった際などは、施設担当者からだけではなく、医師や看護師からの説明に努めているほか、家族も含めたチームでの看取りに取り組んでいる。看取り委員会とユニット職員とで、協調した看取り支援をしている。	重度化や終末期に向けた対応については、契約時にホームの指針に即して時間をかけて説明し、食事が摂れなくなるなど状態が変化した場合は、医師も交え話し合いをしている。これまでに3名を看取っており、家族、医師、看護師なども連携しながら支援している。また、看取り委員会を設置して、職員も含めてサポートする体制を整備している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応方法をOJT・off-JTを使い分け周知徹底している。AED設置業者などに訓練を実施してもらっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災や災害を想定した訓練の他、隣接している老健と協力体制を築いている。水害時の避難誘導に対応できるように小型ボートを備えている。夜間想定訓練も実施している。	年2回避難訓練を行い、今年度は夜間想定で19時から実施している。訓練ではその場で火事、地震などの想定を決め、誘導、通報など実践に即した内容となっている。職員の動きはリーダーがチェックして、気づきなども含めフィードバックしている。今後は地域との交流を深め、緊急時における協力体制構築に努めていきたいとしている。	

## 【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	あくまでも入居者の自己決定を尊重した声かけを行っている。カンファレンスやミーティングを行う際などは、名前を使用せず居室番号で呼ぶなど、誇りや尊厳を傷つけない配慮を行っている。	尊厳を損ねない言葉かけを心がけている。毎月チェックリストを用いて、乱暴な言葉遣いや行動を制限するような言葉かけがなかったか確認している。ミーティングなどでは個人名ではなく居室番号で確認するなど、プライバシーにも配慮した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の声かけの中でも全職員が気を使い、押し付けの介護にならないように努めている。入居者からの希望に対しては実現できないものもあるが、即座に実行するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人を尊重した支援を実施している。入浴など状況に合わせて遅い時間帯に対応するなどしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を利用する際には本人の希望を尊重し、髪型や染色をしてもらうようにしている。ユニットごとに美容師を分けており、希望があれば他ユニット担当美容師からの対応も可能。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的に外食に出かけ、メニュー選ぶことの楽しさを感じていただいたりしている。食事の盛り付けや配膳、食器洗いや食器拭きなど女性入居者だけでなく、男性入居者にも参加してもらっている。	食事は外部の業者に委託して、盛り付けや配膳などを利用者と一緒にしている。利用者の健康を考え玄米菜食を中心に提供している。献立の内容などについては委託会社とのミーティング時に要望を伝えている。定期的に外食に出かけたり、おやつづくりなどの機会を設けるなど、食べることが楽しめるよう支援している。	食事は利用者にとって楽しみでもあることから、季節が感じられる旬の食材を用いたり、彩りなど五感を通して食事が楽しめるような工夫が望まれる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は玄米菜食を中心としている。心身状況が悪化しても、その方に合わせた食事形態をカンファレンスし、水分量なども設定している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを支援するほか、歯科衛生士による専門的なクリーニングを週1回実施している。その際には介護職員にもスクリーニング結果の指導を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失敗や失禁があった際にはカンファレンスを開催、自立に向けた内容で話し合っている。容体悪化した場合でも、本人がトイレでの排泄を希望した場合は介助している。	失禁や失敗があった場合は、定期的な誘導の声かけが行われていたかなど、原因について話し合い自立支援に繋げている。座位保持が可能な場合はトイレでの排泄を支援しており、ターミナルの利用者も希望する場合は、トイレで排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	玄米菜食を中心としたマクロビオテックにて、薬剤による排泄補助を減らす取り組みを法人として行っている。1日の中で体操を複数回行っている。夜間のトイレ時などにも飲水の声かけを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯は概ね決めてしまっているが、個別の入居者により遅い時間などを希望している場合は対応している。衣類・入浴剤などは本人に選んでもらい楽しんでもらっている。	入浴は利用者の希望や状況などにより、週2~3回支援しており、希望に応じて夕食後にも対応している。好きな入浴剤を選んでもらったり、湯船につかりながら、職員と一緒に歌を歌うなど入浴を楽しめるように努めている。また、ホームでは各ユニットにリフト浴を整備して、利用者が重度化しても入浴できる体制を整えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	グループホームは入居者にとっての「我が家」であると考え、自由にフロアと居室を歩き来してもらい、休息をとっていただいている。室温や明るさにも気を配り安眠していただけるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時に医師・看護師・薬剤師などと、薬についてのカンファレンスを個別に実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人やご家族からの情報のほか、様々なレクリエーションを提供し、本人の嗜好を理解するように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ただちに行動できない場合もあるが、戸外に出かける機会を多く設けている。レクリエーションとしてのユニット対応から個別対応まで、近距離・長距離問わず実施し、現在進行中の旅行計画ではご家族の参加と手伝いを依頼している。	天候がよければ近隣を散歩しており、ユニットごとに外食や水族館などに出かけている。また、地域の盆踊りや桜まつりなどにも参加している。馴染みの喫茶店や食堂に行くなど個別での対応も行っているが、今後は家族の協力を得て泊りがけの旅行を計画するなど、より外出の機会を設けるようにしていきたいとしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日用品の買い物や地域の行事に参加し、入居者に選んで支払ってもらったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話はかけることができ、外部からの電話も繋いでいる。 季節の便りなどご入居者様に作成してもらい送付している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には天窓を設置したことで、自然光を多く取り入れられている。季節ごとの飾りつけをしている。居室はアクセントカラーを用いることで色が単一とされない様に配慮している。	リビングの天井には開閉式の天窓が設置されており、自然の光や風、音などで季節を感じられるようにしている。トイレの手すりを認識しやすい濃い目の色にしたり、ユニットごとに壁の色を変えるなど変化をもたせたり、エアコンは利用者に直接冷気などがあたらないように配慮するなど、居心地よく過ごせる空間づくりを心がけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	状況に応じて席替えをしたり、ソファーにて休める時間を工夫して援助している。 入居者の状況に合わせ音楽を流したりアロマを焚いたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的には本人と家族で自由にレイアウトしてもらい、ご家庭で使い慣れた家具や布団を持ってきていただいている。状況に応じて施設からもアドバイスをを行っている。	自宅での環境と大きく異ならないように配慮している。許可を得た利用者の居室を入居前に見てもらい、入居後のイメージを持ってもらうこともある。居室は壁を暖色系にするなど、ほっとできる空間になるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日々状況に合わせた安全対策を行っている。安全を重視しすぎ、過剰としないようにも配慮している。		